

**N-mag.**  
ニュースセンター

**N e w s & R e p o r t**

NTTへの規制はまだ手ぬるい？

## 改正通信事業者法と 通信サービスの行方

3月29日、駐日欧州代表部の主催による「改正通信事業者法の施行による、電気通信サービス分野における競争政策の行方」と題された記者向けのセミナーが行なわれた。セミナーでは、ケーブル&ワイヤレスIDCやボーダフォンといった外資系キャリア、日本テレコムやKDDIのような国内のキャリア、そして通信事業の監督官庁である総務省の総合通信基盤局から、それぞれ代表者が1人ずつ参加し、「通信規制」に関するパネルディスカッションを繰り広げた。

改正通信事業者法では、第一種と第二種の事業区別や第一種事業での許可制が廃止されるほか、画一料金でのサービス提供になる約款取引から自由な価格設定を行なえる相対取引に移行する。こうした施策から、競争原理を導入し、市場を活性化させるのが総務省の意向だ。しかし、NTTのような巨大キャリアが、現在も通信に不可欠な「ボトルネック設備」を有している。そのため、特定のサービスにおいて一定のシェアを持つ支配的事業者の力をそぐ「ドミナンス規制」の導入が重要になっている。

総務省の総合通信基盤局長岡野一郎氏は、NTT東西のシェアを約36%にとどめ、

競争が激しく進展している例としてADSLの市場動向を示し、総務省のドライアップ開放の成果を強調。さらに、事業者間の競争を解決するための機関の設置や、支配的事業者が公正競争を妨げる行為を行なっていないかをチェックする仕組みの導入など、他国に比べて十分な競争ができる環境であることをアピールした。

「そもそもNTTの株主である国が通信規制を行なうのは、立場としておかしい」という意見に対しては、長岡氏が「株を持っているのは財務省で、通信規制を管理するのは総務省。そもそも別組織なわけで、政府が中立てないという考えは捨ててもらいたい」と言葉を荒げる場面もあった。

一方、他の通信事業者の代表は、競争を推進する改正通信事業者法に関して方向性に関してはおおむね同意するものの、いくつかの点で問題を提起した。たとえば、国内の加入電話サービスを提供するNTT東西が抱えている顧客名簿の存在だ。こうした名簿を元に、ADSLやFTTHなどNTT系列の会社の営業に使われた場合、他の通信事業者は圧倒的に不利になってしまう。また、相対取引に関しても、支配的事業者がシェ

アの大きさを活かした低価格設定をした場合、総務省はどうやって小売値をチェックするのかといった問題も提起された。これに対して長岡氏は、支配的地位の悪用が指摘された段階で、協議の上迅速に業務改善命令が出せるようになっているため問題ないと答えた。

さらに、制度制定までのプロセスに関しても不満が噴出した。現在は総務省での規制に関する論議を「パブリックコメント」という形で公開し、それに対して意見を求めるという方法が採られている。しかし、多くの意見が実際の規制に反映されることは少なく、キャリア側からはたぶん事後承諾的な色合いが強いことが指摘された。

セミナーは、総務省と通信事業者の立場の違いや問題点などが明らかになった点で非常に有意義だった。世界をリードするブロードバンド大国となった日本が、今後普及するFTTHやIP電話などの競争ルールをどのように作っていくのか、今年の大きな課題といえるだろう。



写真●総務省や通信事業者の代表がそれぞれの立場で意見を述べ、甲南大学の佐藤治正氏がモデレーターとして意見をまとめるという形で進められた

## アライドテレシス 「TELESYN」ブランドの国産DSLAM発表

アライドテレシスは3月16日、通信事業者向け機器の新ブランド「TELESYN (テレシン)」を発表し、第1弾の製品として、DSLAM (DSL Access Multiplexer) 装置「TELESYN 7000シリーズ」の受注を同日より開始した。TELESYN 7000シリーズは、最大伝送速度24MbpsのAnnex A系のADSLに対応するシャーシ型のDSLAM。

同社では、昨年夏から同様の製品を北米で販売しており、すでに地域系の通信事業

者による導入実績がある。同シリーズが対応するG992.5AnnexAは日本ではYahoo! BBのみが採用しているが、地方の通信事業者や自治体による新規のサービスを主なターゲットにするという。

製品はシャーシ型の本体と、機器の制御を行なうコントロールモジュール、ADSLインターフェイスを16ポート搭載するサービスモジュール (ラインカード)、WAN側インターフェイスを搭載するネットワークモジ

ュールからなる。今回受注を開始したのは、サービスモジュールを7枚搭載可能で、112回線まで収容可能な「TELESYN 7400 (AT-TN7400)」, 同16枚搭載可能で256回線の収容が可能な「TELESYN 7700 (AT-TN7700)」の2製品となる。

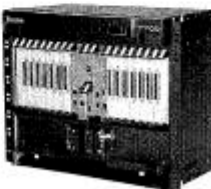


写真1●256回線の収容が可能なTELESYN 7700。日本向けADSL規格であるAnnexC/IIには今後対応予定